

## 第2章 集計の概要

## 1. 集計の対象

### (1) 罹患日の期間

2017年1月1日から2017年12月31日まで

### (2) 調査の期間

届出票受領期間：2017年1月1日から2020年12月31日まで

遡り調査期間：2019年9月27日から2019年11月11日まで

### (3) 集計日

2021年5月1日

### (4) 集計対象となるがん

第1章 3. 『届出対象となるがん』と同一である。

### (5) 精度指標

MI比：0.36

DCI割合：5.0%

DCO割合：3.4%

MV比：86.5%

HV比：83.7%

## 2. データ収集状況

### (1) 届出票

2017年診断症例の届出票は、総計169,741件であった(重複、対象外を含む。)。そのうち、97.3%を診断年翌年末までに受領している。

図2-1 届出票（2016年）受領状況

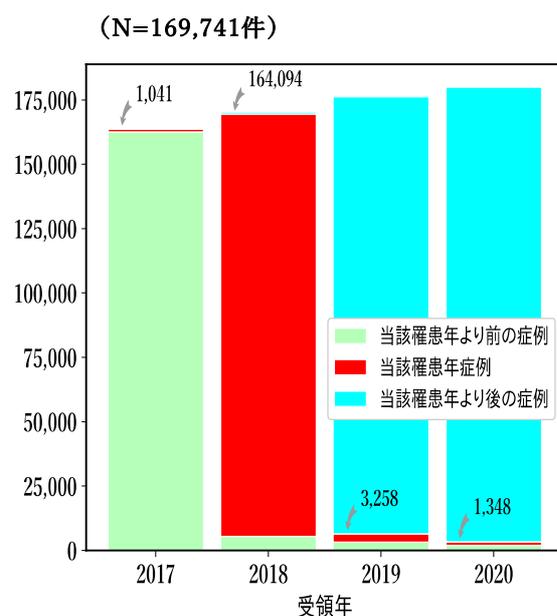
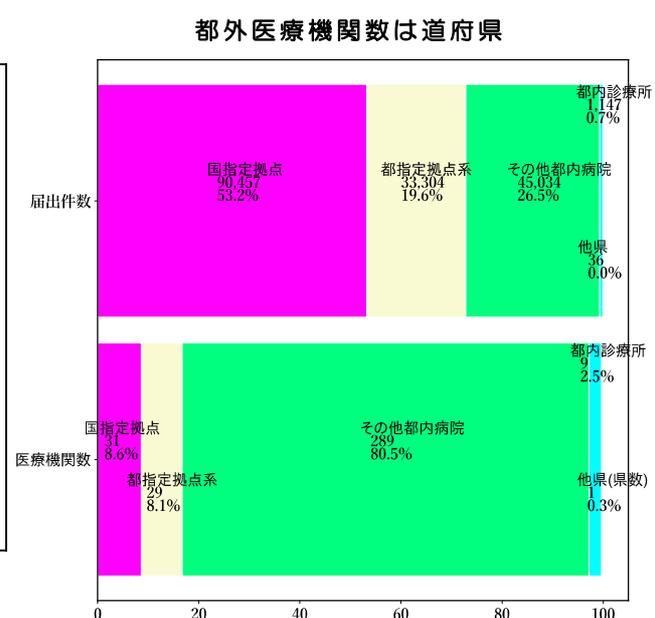


図2-2 届出票（2016年）医療機関別件数



## (2) 死亡票

全国がん登録事業では、死亡票は法定業務として国が一括して取り扱うこととなったため、東京都がん登録室では、2016年以降の死亡票の収集は行っていない。

## (3) 遡り調査票

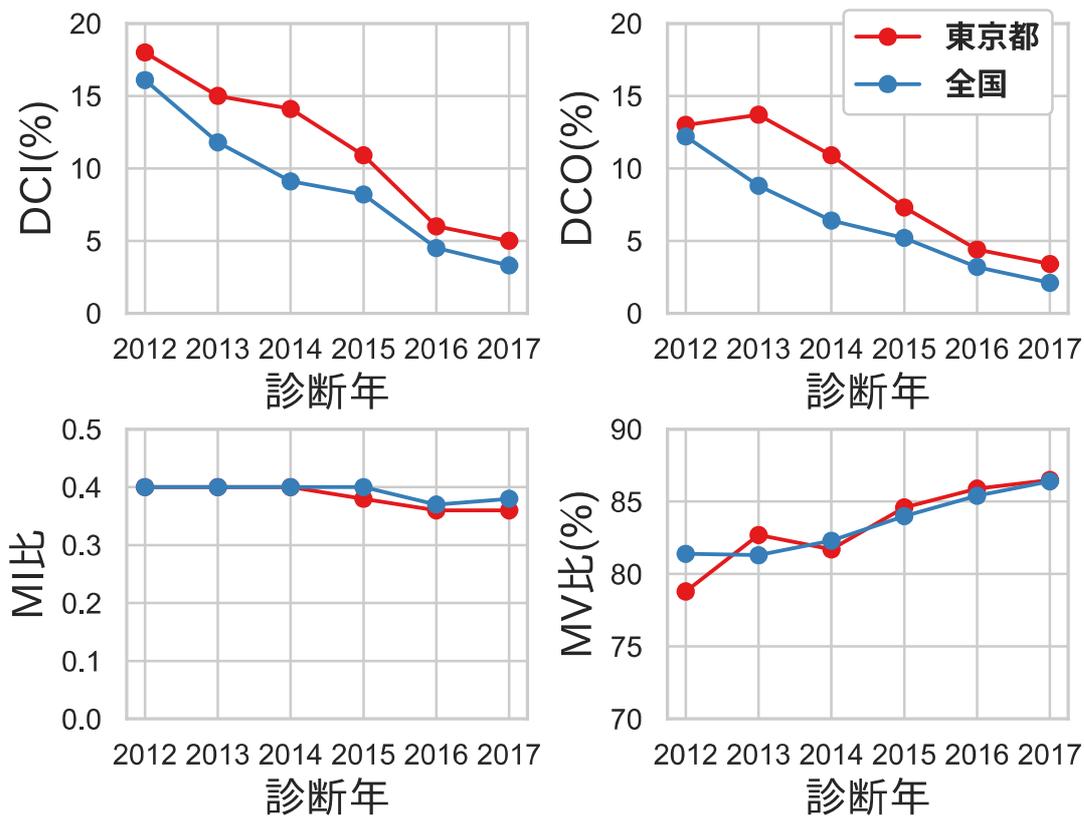
2017年遡り調査対象は、4,810件（524病院）であった。遡り調査に対する回答は4,145件（全遡り調査に対する回答率86.2%）、396病院（同75.6%）であった。

## (4) がん登録の精度

### ①がん登録精度指標の改善状況

2012年に地域がん登録として始まった東京都におけるがん登録の精度指標は、全国レベルと歩調を合わせる形で漸次改善している（図2-3）。

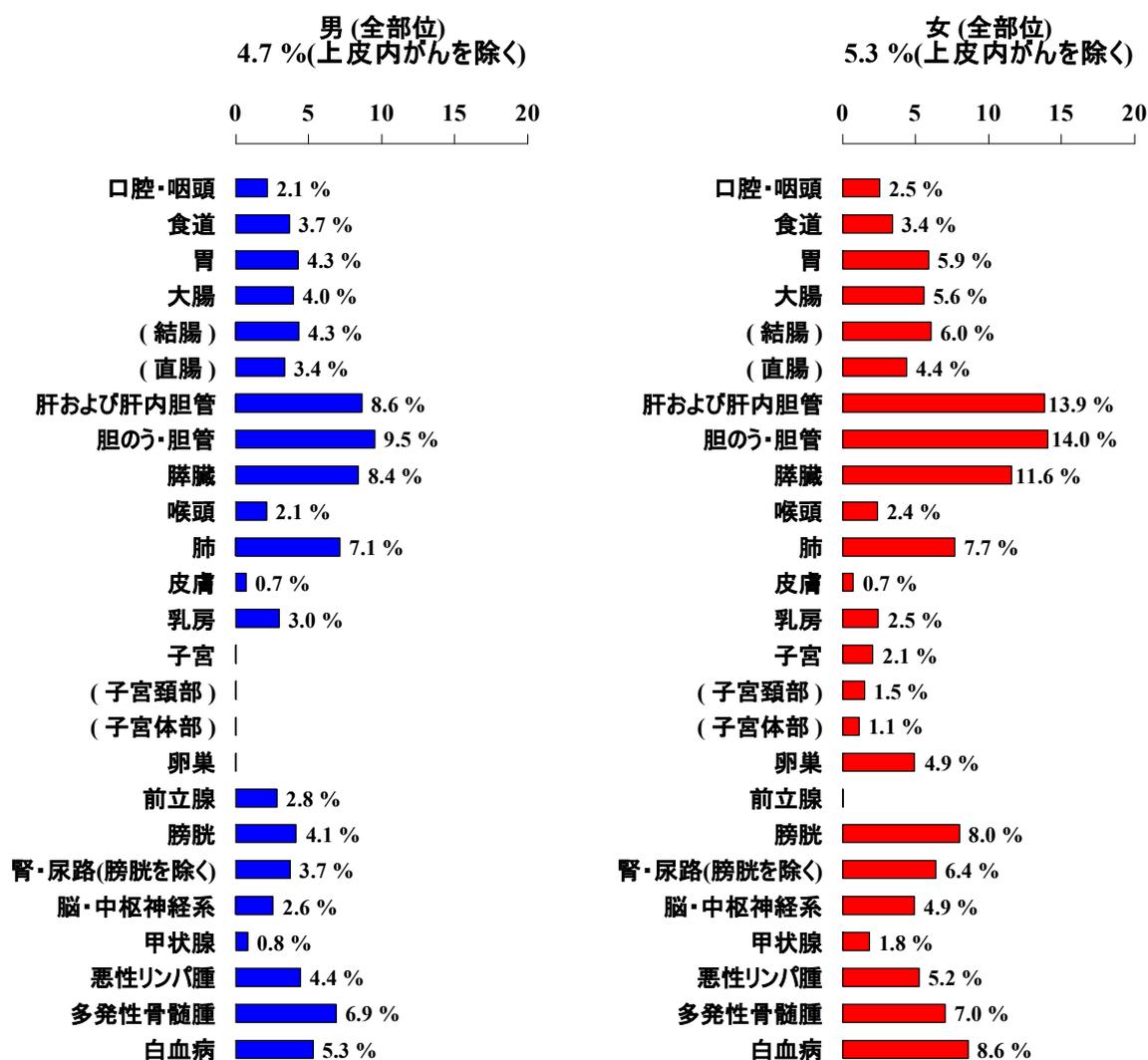
図2-3 がん登録の精度指標の推移



## ②部位別・性別DCOの違い

DCOが低いのは、男では、皮膚、甲状腺、中枢神経、食道、口腔・咽頭など、女では、皮膚、甲状腺、子宮、口腔・咽頭、乳房などである。逆にDCOが最も高いのは男女とも胆のう・胆管であり、次いで肝および肝内胆管、膵臓と続く（図2-4）。

図2-4 部位別・性別DCO（2017年）（上皮内がんを除く）

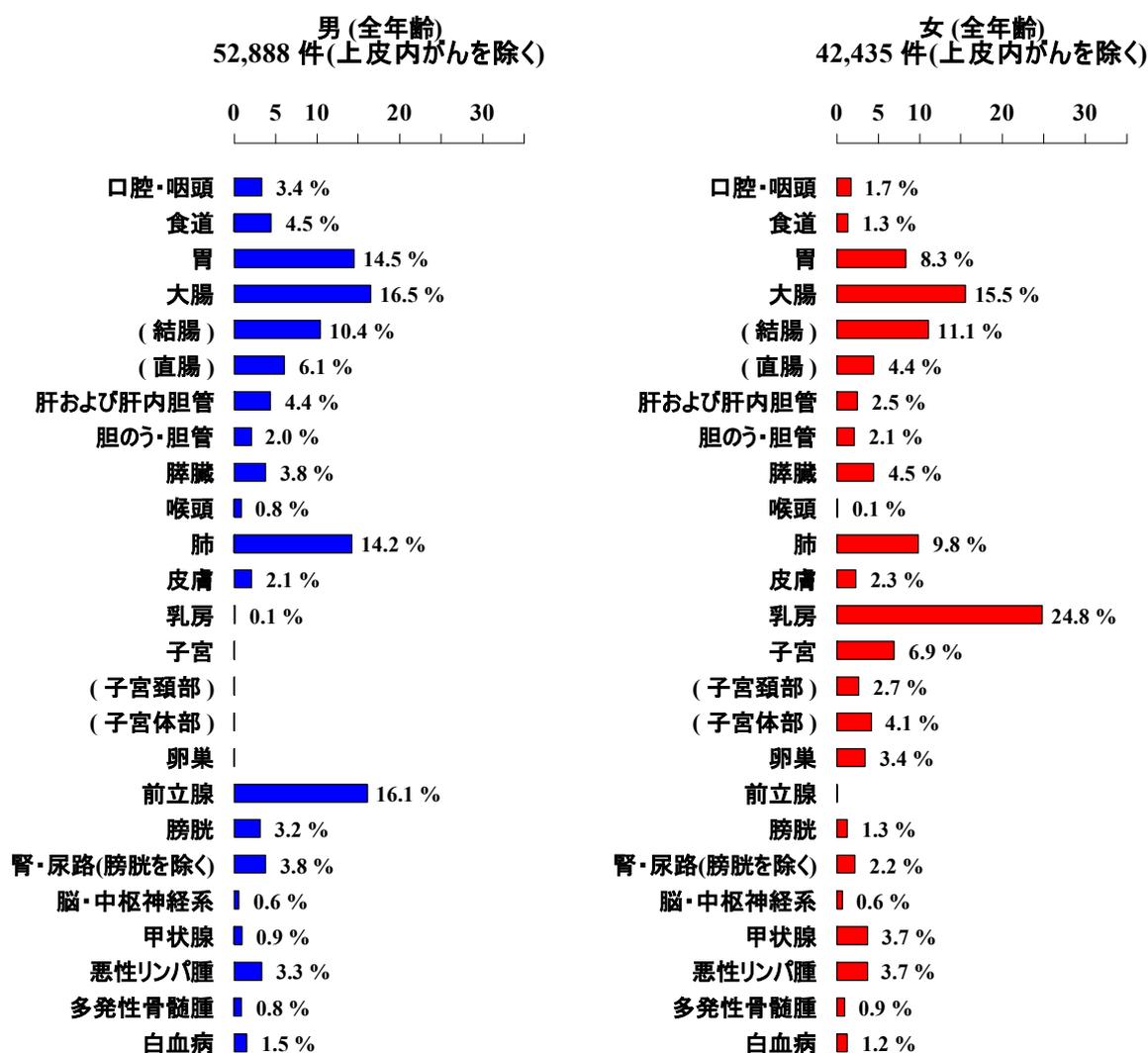


### 3. がん罹患の概要

#### (1) 部位別・性別罹患数（表3-1-A/B）

届出票と死亡票の情報を集約したがん罹患数は、上皮内がんを除いた場合、男性52,888件、女性42,435件で、男女計で95,324件（性別不詳を含む）であった。上皮内がんを含めた場合、男性57,982件、女性49,192件で男女計107,175件（性別不詳を含む）であった。上皮内がんを除いた、男性の最も多い罹患部位は、大腸（結腸、直腸）（16.5%）であり、前立腺（16.1%）、胃（14.5%）、肺（14.2%）、食道（4.5%）と続く。女性の最も多い罹患部位は、乳房（24.8%）であり、次いで、大腸（結腸、直腸）（15.5%）、肺（9.8%）、胃（8.3%）、子宮（子宮頸部、体部）（6.9%）と続く（図2-5）。

図2-5 部位別・性別罹患件数・割合（2017年）（上皮内がんを除く）（年齢不詳を含む）



## (2) 年齢別がん罹患（表 3-2-A/B、3-3-A/B）

2017年のがん罹患数（上皮内がんを除く）の年齢別の内訳を見ると、65歳以上が、男性76.9%、女性63.0%を占めている。一方、40～64歳は、男性が21.2%であるのに対して、女性は32.2%となっている（図2-6）。

上皮内がんを除くがん罹患数は、男性は対女性比で24.6%（10,453件）多いが、生産年齢人口の対象となる15～64歳に限ると、女性は対男性比で29.0%（3,508件）多い。これは、この時期に女性の乳房と子宮に発生するがんが多いためである（図2-7）。

年齢階級別罹患率を見ると、男女とも年齢とともに罹患率は上昇するが、特に50歳を超えると上昇する。また、10歳代後半から50歳代前半の間は、女性の方が男性より罹患率は高く、それ以外の年齢階級では、男性の方が高い。

部位別に見てみると、女性の場合、乳房は30歳代後半から、子宮頸部は上皮内がんを含めると、20歳代から30歳代にかけて上昇している。年齢のピークは、乳房では、40歳代から60歳代にあり、40歳代と60歳代の二峰性である。子宮頸がんは上皮内がんを含む場合、30歳代から40歳代前半がピークである。直腸と食道は、男性の場合のみ、70歳代がピークとなっている（図2-8）。

図 2-6 がん罹患年齢群別内訳（2017年）（年齢不詳を除く）

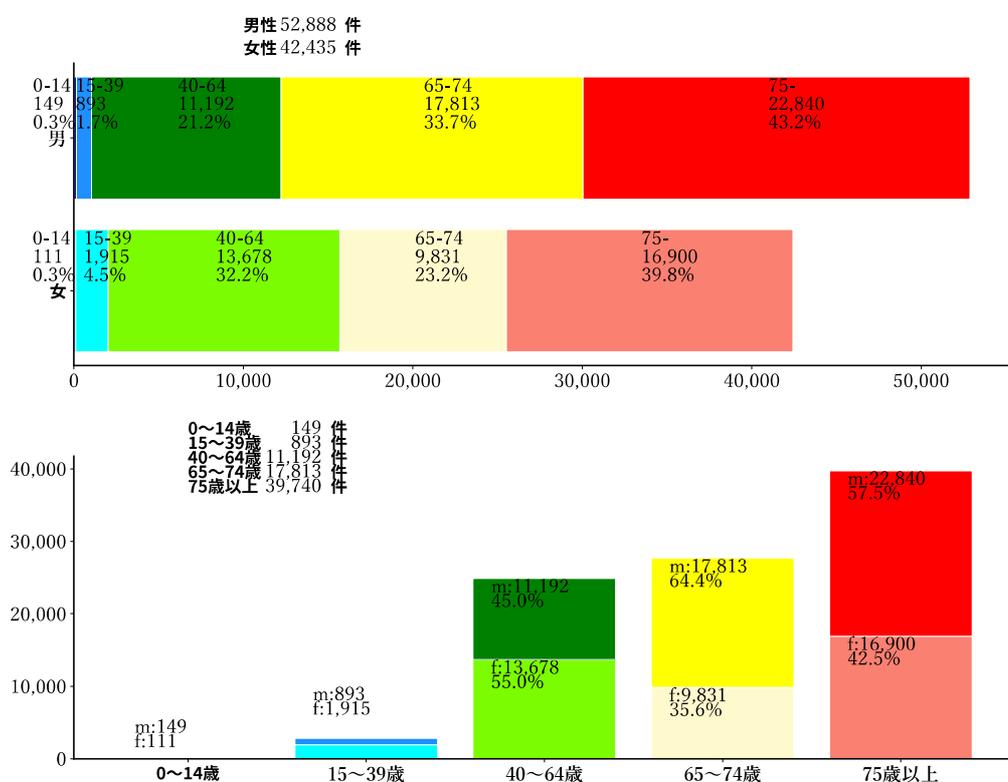


図2-7 がん罹患年齢群別部位別内訳 (%) (2017年) (年齢不詳を除く)

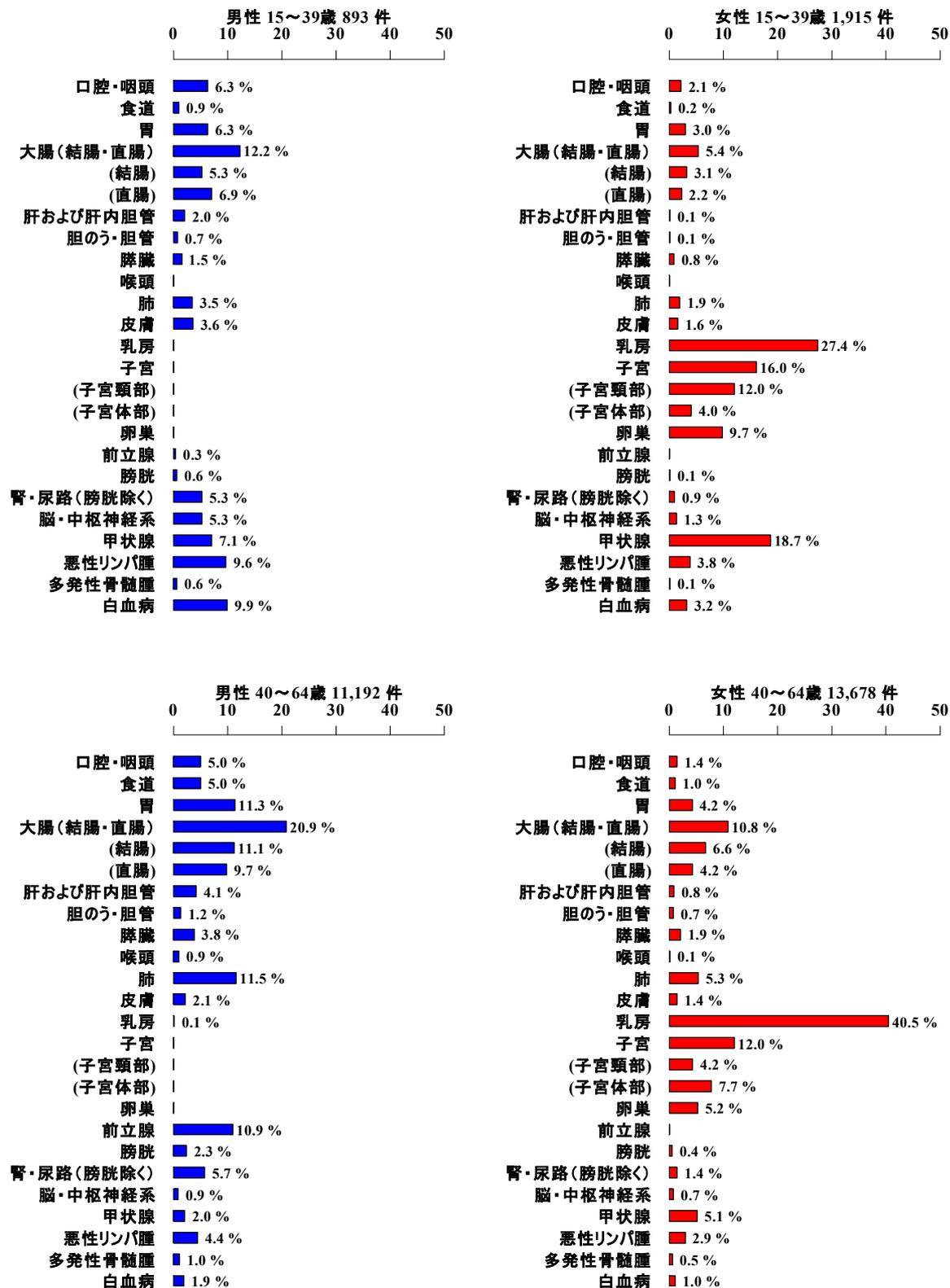


図2-7 がん罹患年齢群別部位別内訳 (%) (2017年) (続)

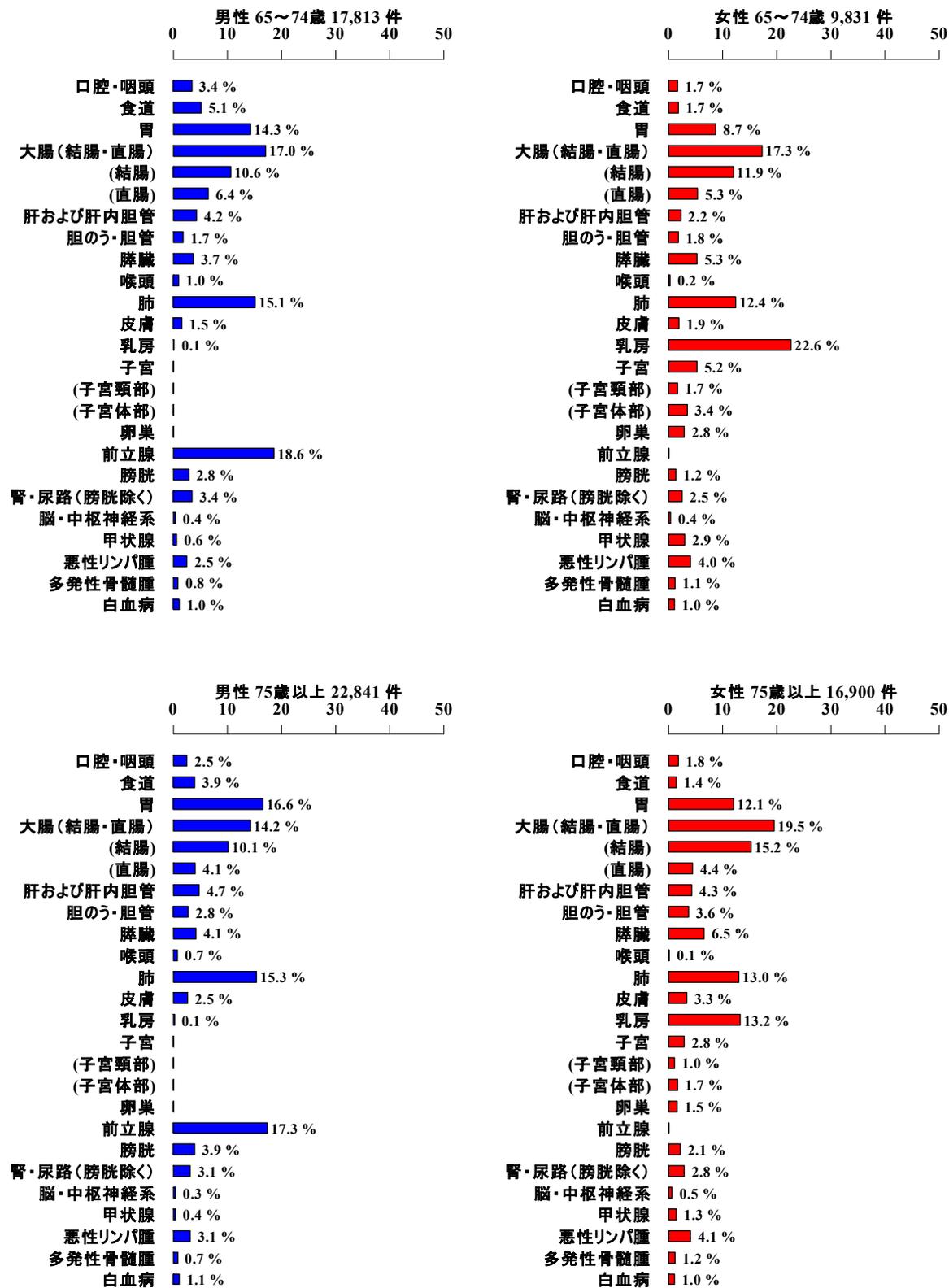


図2-8 部位別年齢階級別罹患率（2017年）：人口10万対

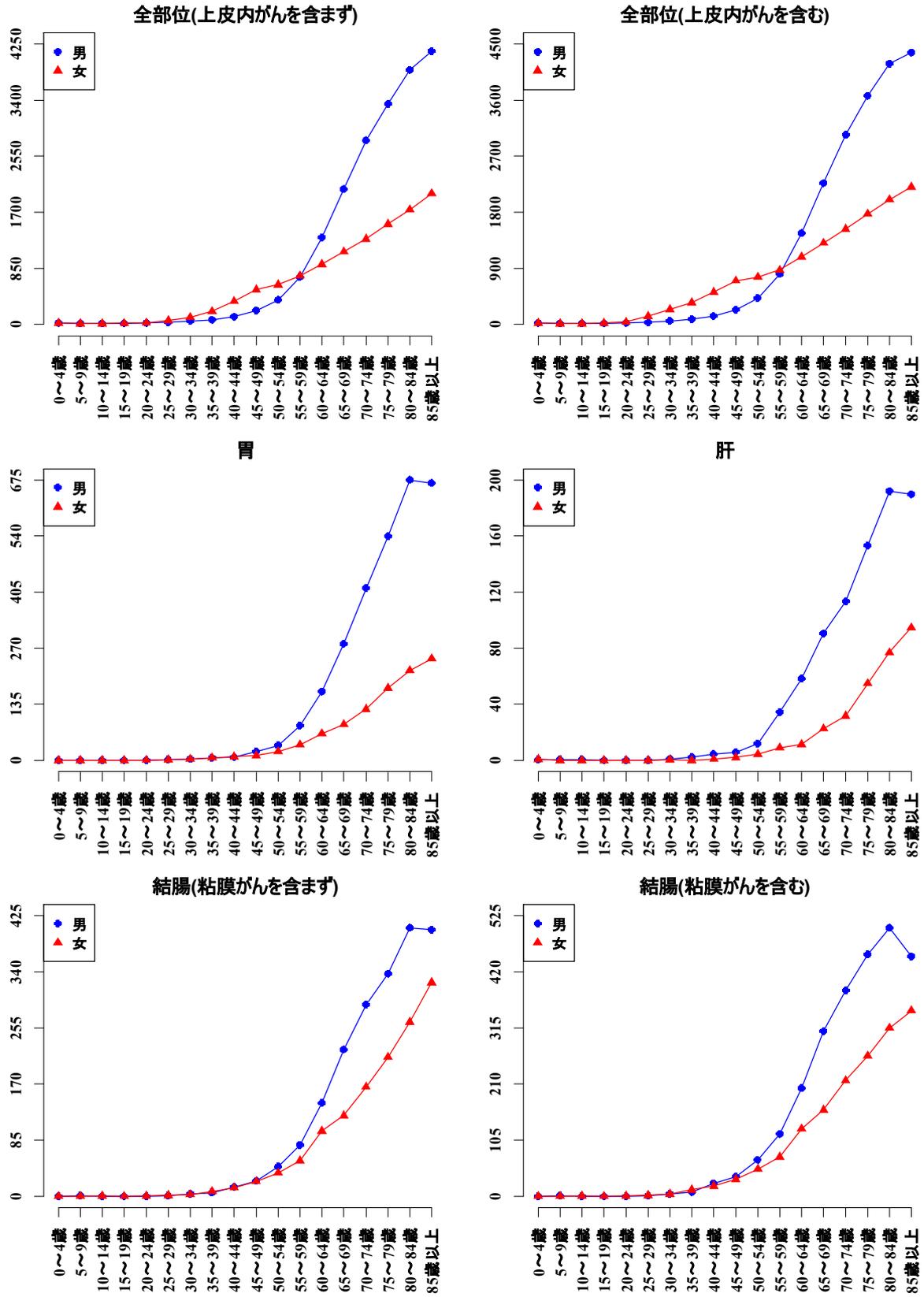


図2-8 部位別年齢階級別罹患率（2017年）：人口10万対（続）

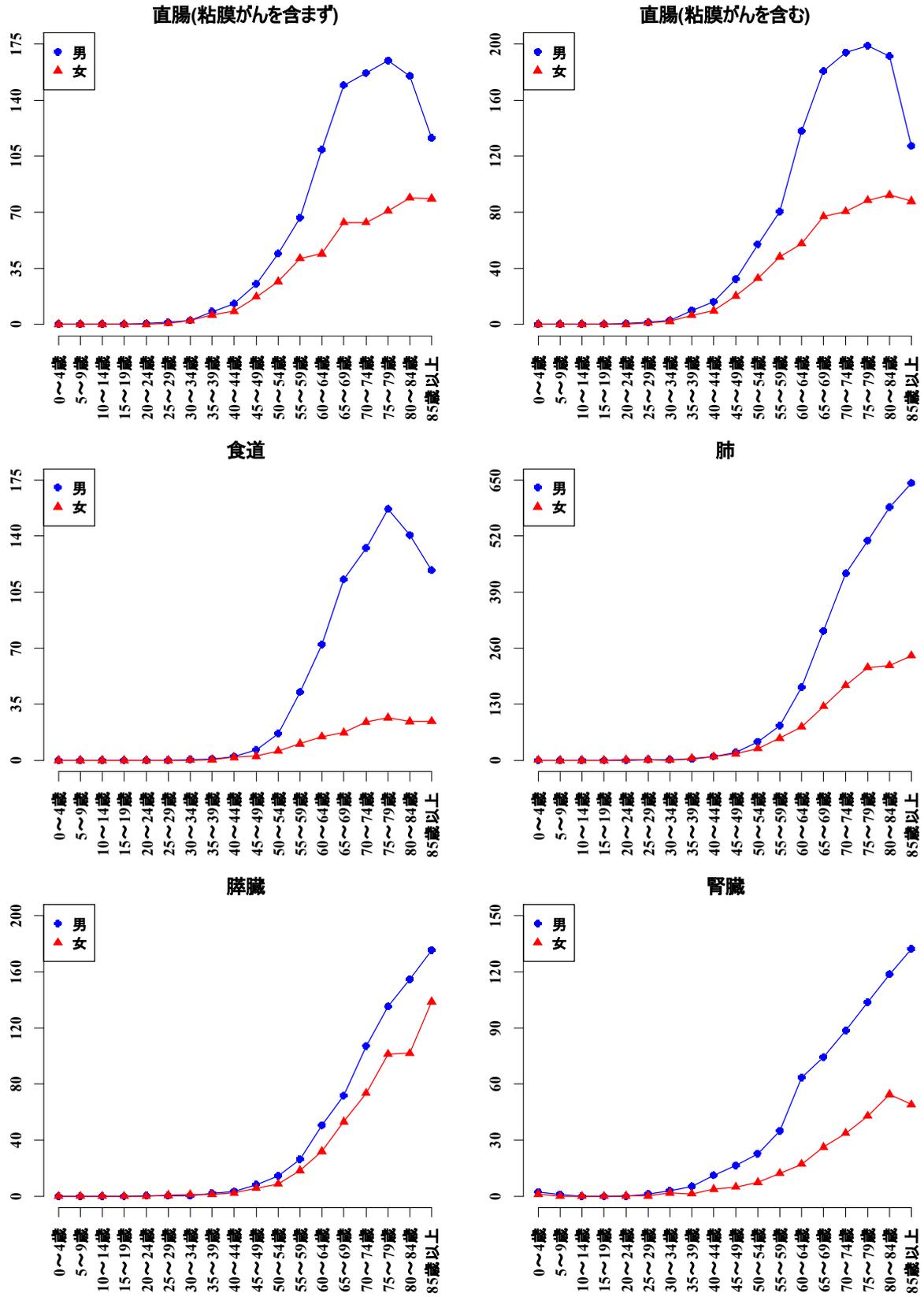
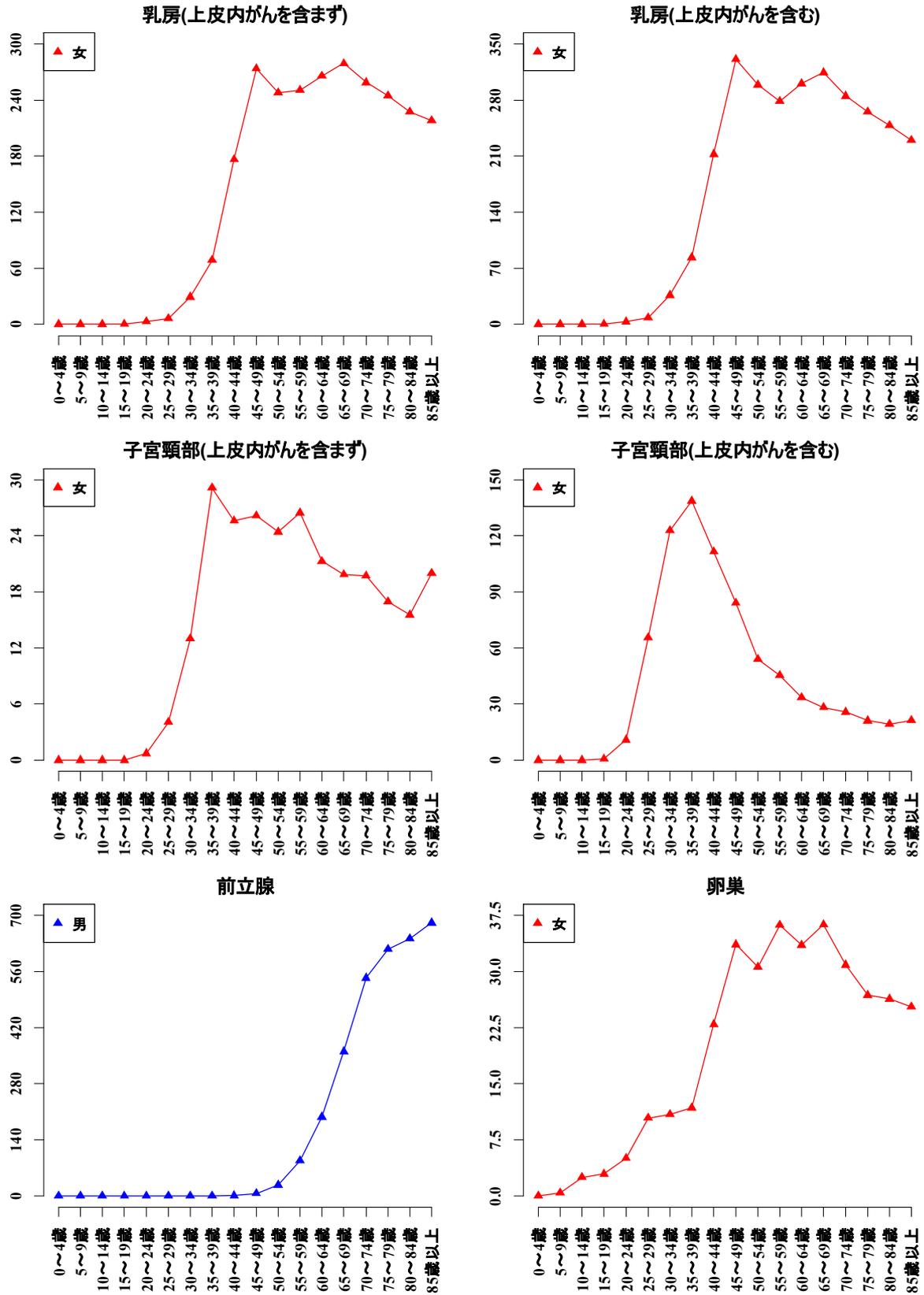


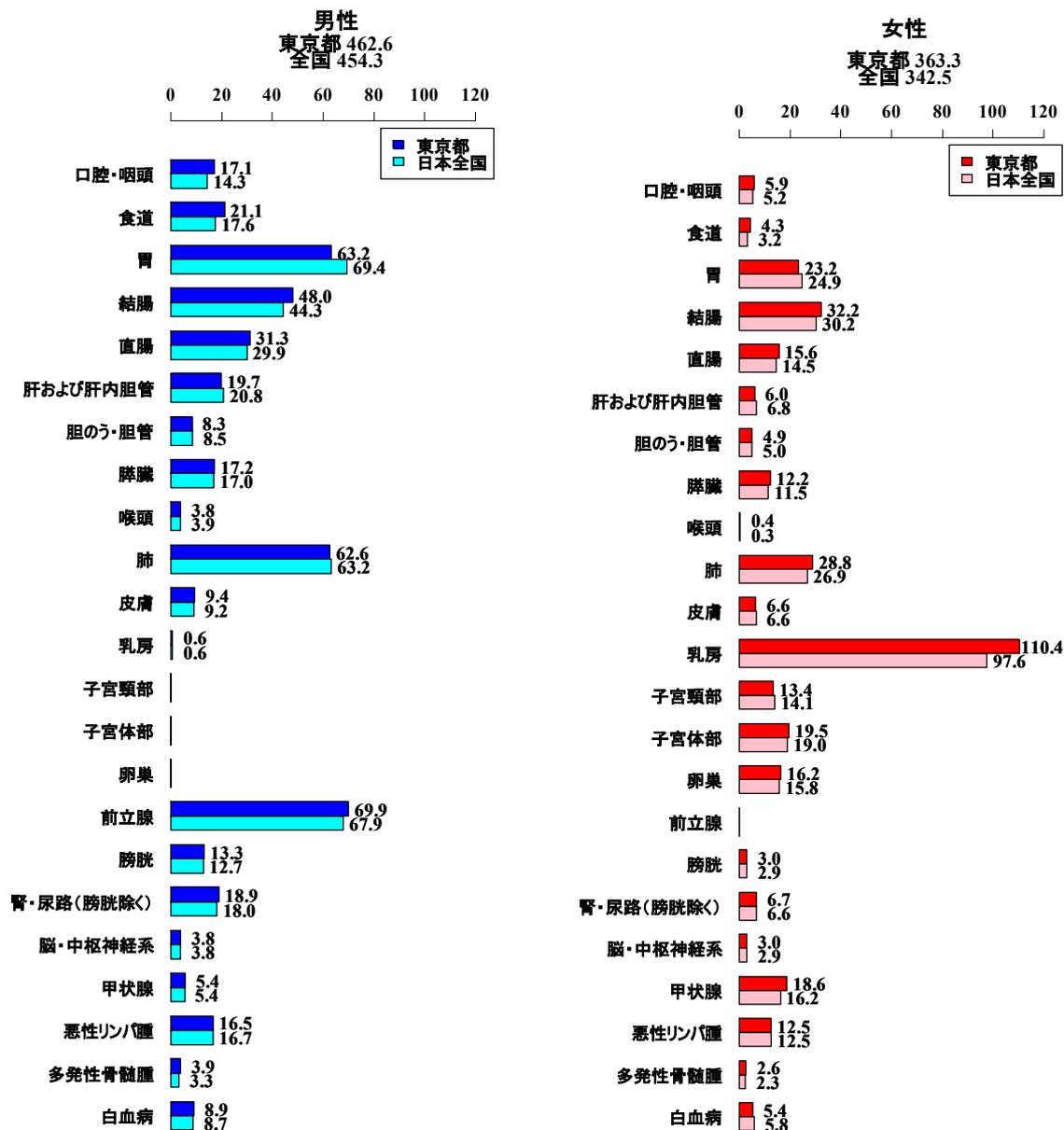
図2-8 部位別年齢階級別罹患率（2017年）：人口10万対（続々）



### (3) 年齢調整罹患率（2017年）（表3-1-A）

東京都の年齢調整罹患率（上皮内がんを除く。昭和60年日本人口モデルに基づく）は、人口10万人当たり、男性462.6、女性363.3である。全国での値は、男性454.3、女性342.5であるので、男女とも東京都の方が高い。部位別では、男女ともに全国と比して概ね同様の傾向を示しているが、男性では、胃は東京都の場合、全国より低く、女性では乳房は東京都の場合、全国より顕著に高い（図2-9）。

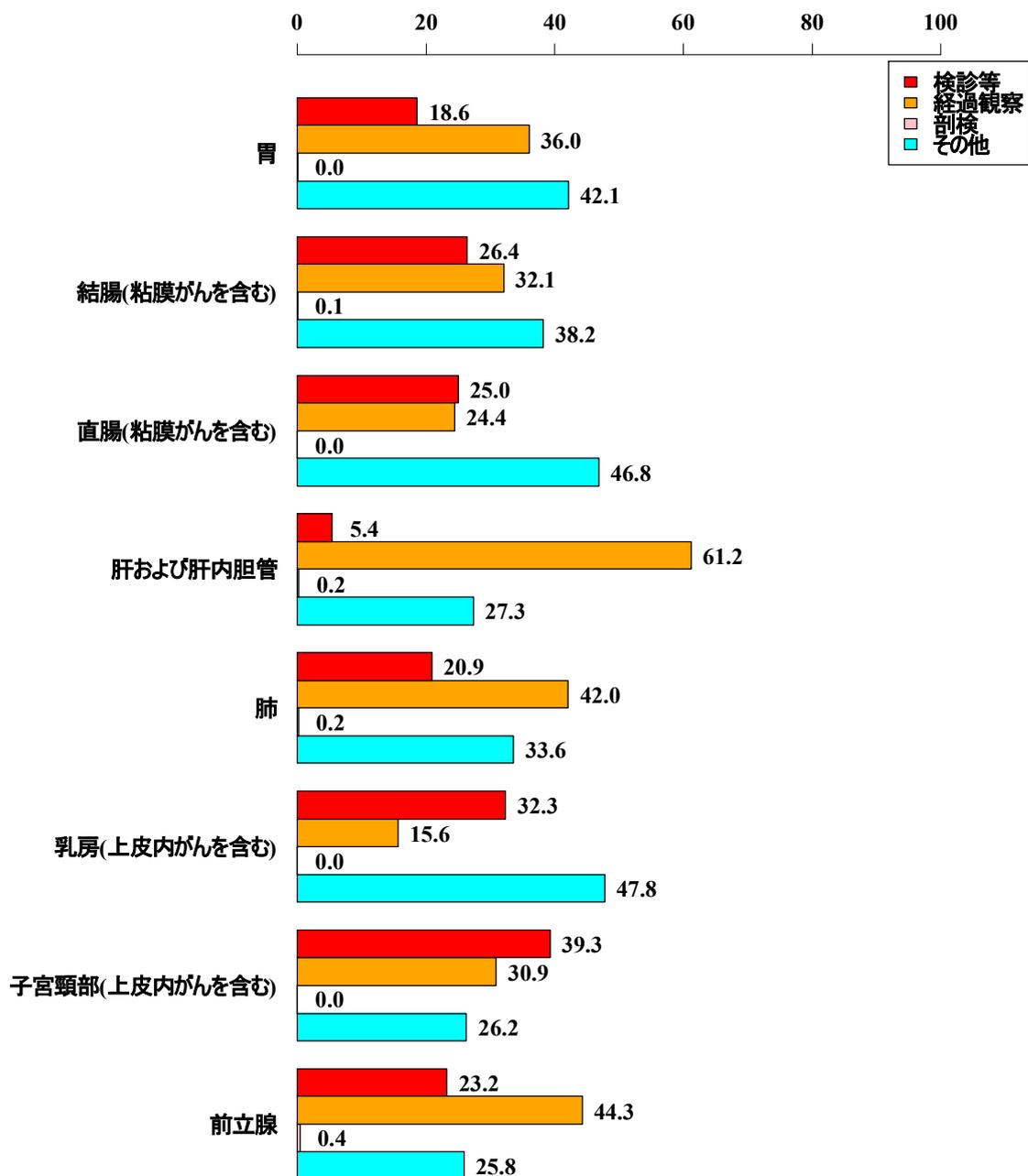
図2-9 部位別がん年齢調整罹患率（2017年）：人口10万対（全国推計値との比較）



#### (4) 発見経緯（表3-4-A/B）

検診等（がん検診、健康診断、人間ドック等）が発見経緯になる部位は、男女合わせてみると子宮頸部、乳房における割合が高い。また、肝および肝内胆管で経過観察の割合が高い（図2-10）。

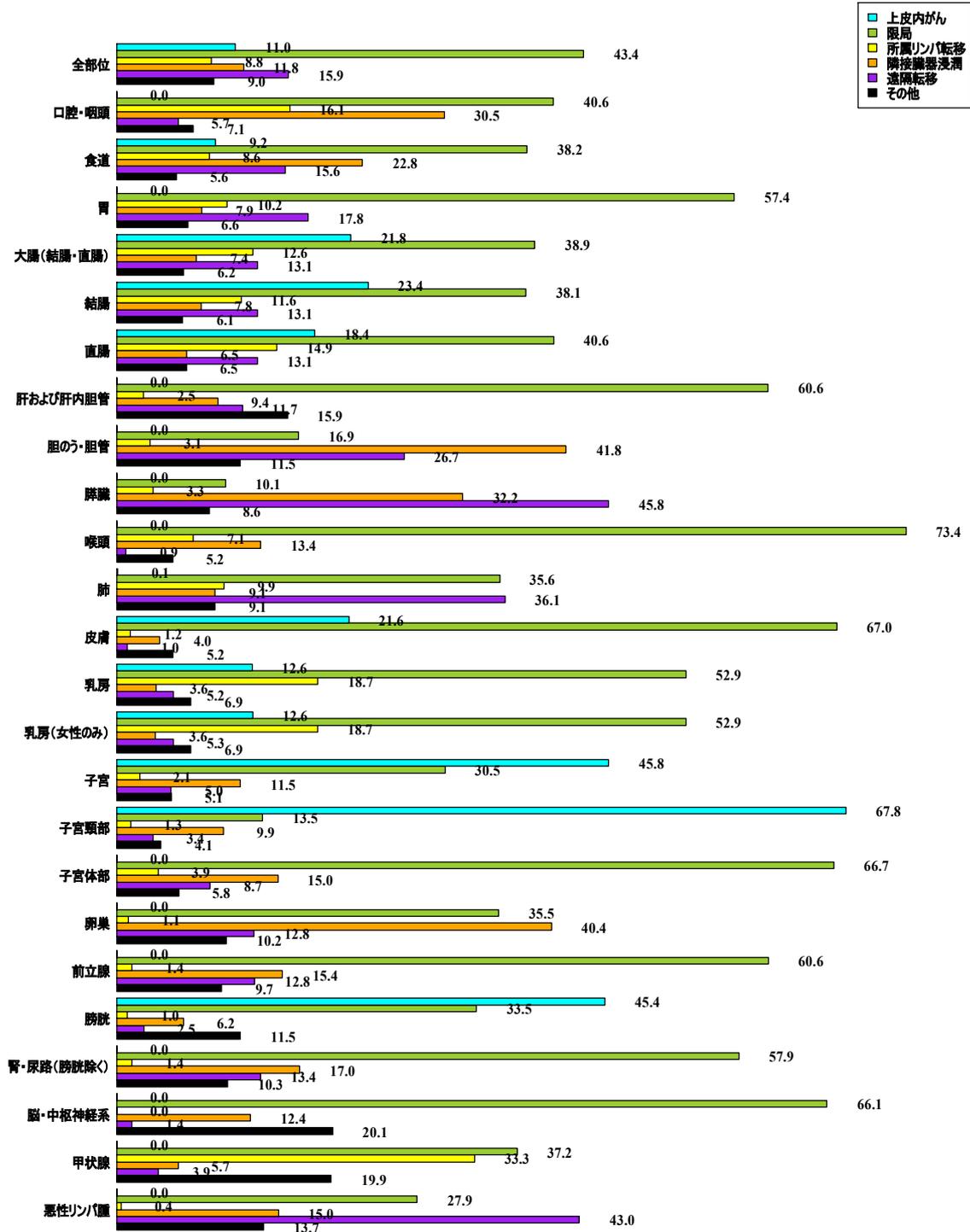
図2-10 部位別発見経緯割合（％）（2017年）（DCO症例を除く）



(5) 病期 (表3-5-1-A/B)

中枢神経、甲状腺、悪性リンパ腫以外で、所属リンパ節転移以上の進行状態で診断される割合の高い部位は、膵臓、胆のう・胆管、卵巣、肺であるが、膵臓と肺は遠隔転移の割合が高く、胆のう・胆管や卵巣は、隣接臓器浸潤が高い (図2-11)。

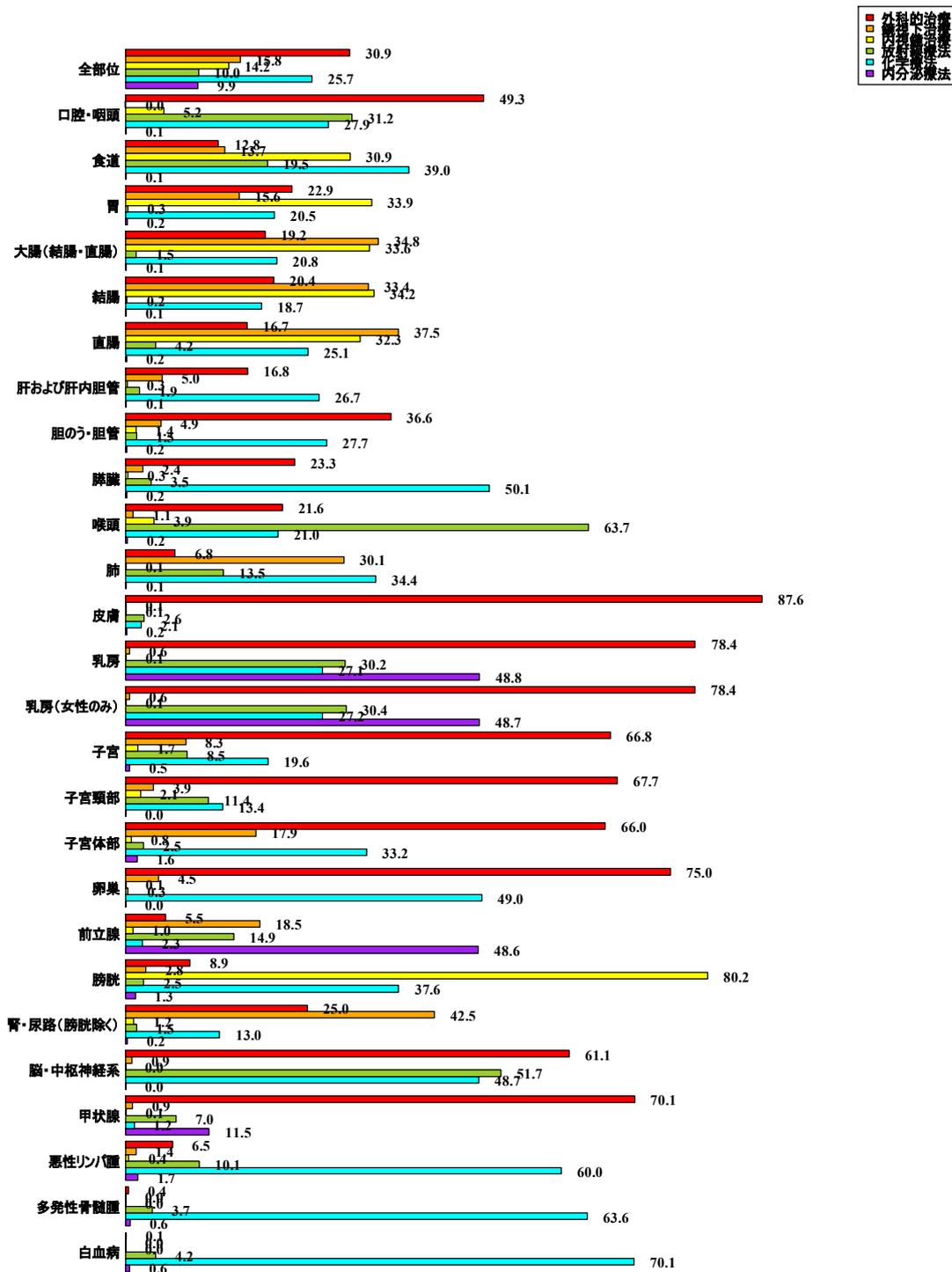
図2-11 部位別発見時病期割合 (%) (2017年) (DCO症例を除く)



(6) 初回治療内容 (表3-6-A/B)

造血器腫瘍（悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、白血病）以外で薬物治療（化学療法+内分泌療法）の割合が高いのは、乳房、前立腺、卵巣、膵臓、食道である。また、放射線治療の割合が高いのは、喉頭、脳・中枢神経系、乳房、口腔・咽頭、食道である（図2-12）。

図2-12 初回治療内容（上皮内がんを含む）（%）（2017年）（DCO症例を除く）



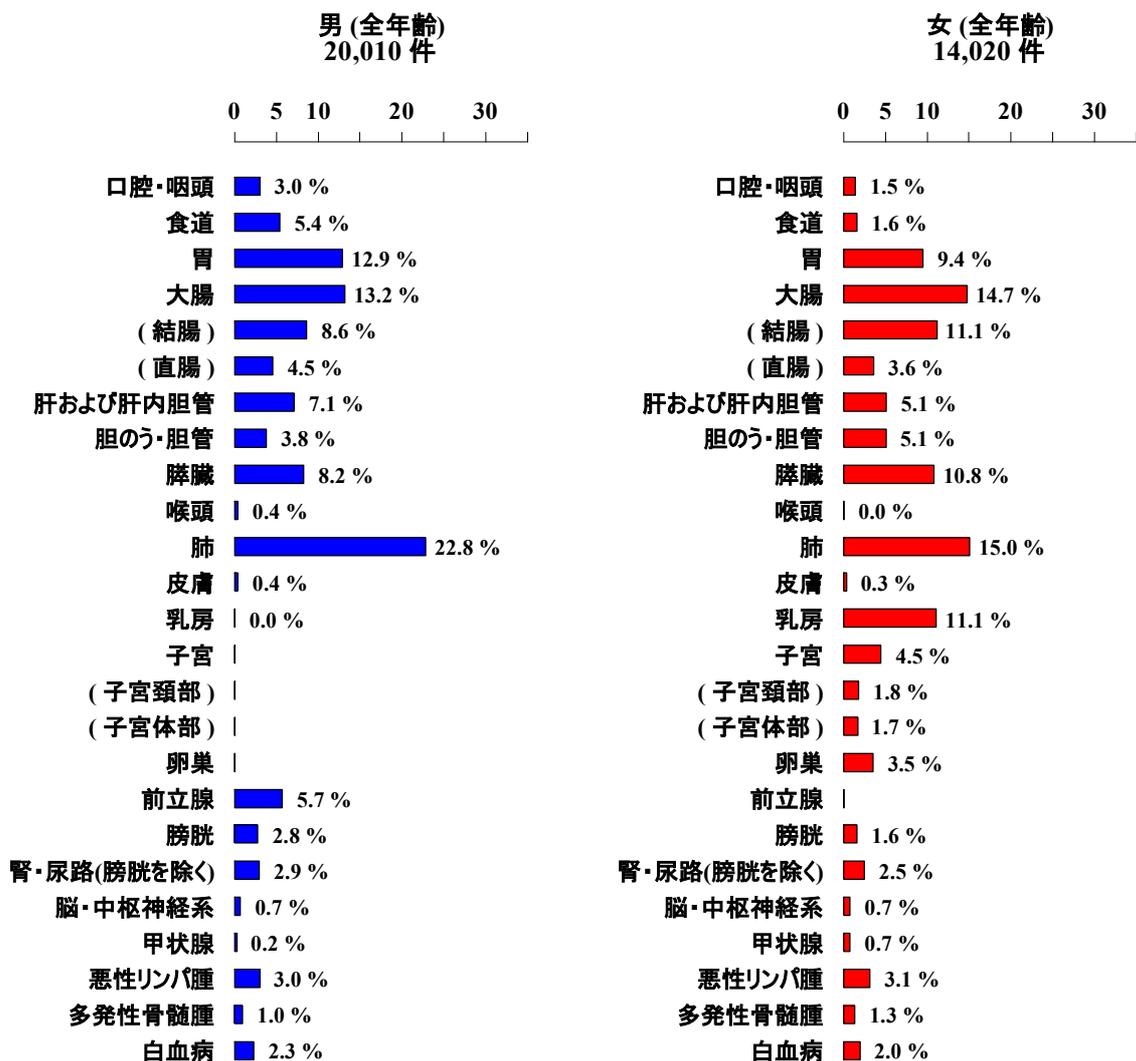
#### 4. がん死亡の概要

##### (1) 部位別・性別がん死亡数（表3-9）

東京都において2017年のがんによって死亡した者の数は、男性20,010名、女性14,020名、男女計34,030名である。

がん死亡数を部位別に見た場合、男性は、肺、大腸、胃、膵臓、肝および肝内胆管の順に多く、女性は、肺、大腸、乳房、胃、肝および肝内胆管の順に多い（図2-13）。

図2-13 部位別・性別がん死亡件数・割合（2017年）（年齢不詳を含む）



## (2) 年齢別がん死亡（表3-10/11）

2017年がん死亡の年齢別内訳を見ると、65歳以上での死亡が男性86.1%、女性84.3%と、ともに8割以上を占めている。一方、40～64歳は、男性で13.9%、女性は15.2%を占める。がん死亡数は、男性は対女性比で42.7%（5,990名）多い（図2-14）。

年齢階級別死亡率（図2-15）を見ると、男女とも年齢の上昇とともに増加するが、50歳を過ぎる頃から更に上昇する傾向にあり、中でも女性の場合、乳房・子宮は、20歳代後半から死亡率が上昇する。

図2-14 がん死亡年齢群別内訳（2017年）（年齢不詳を除く）

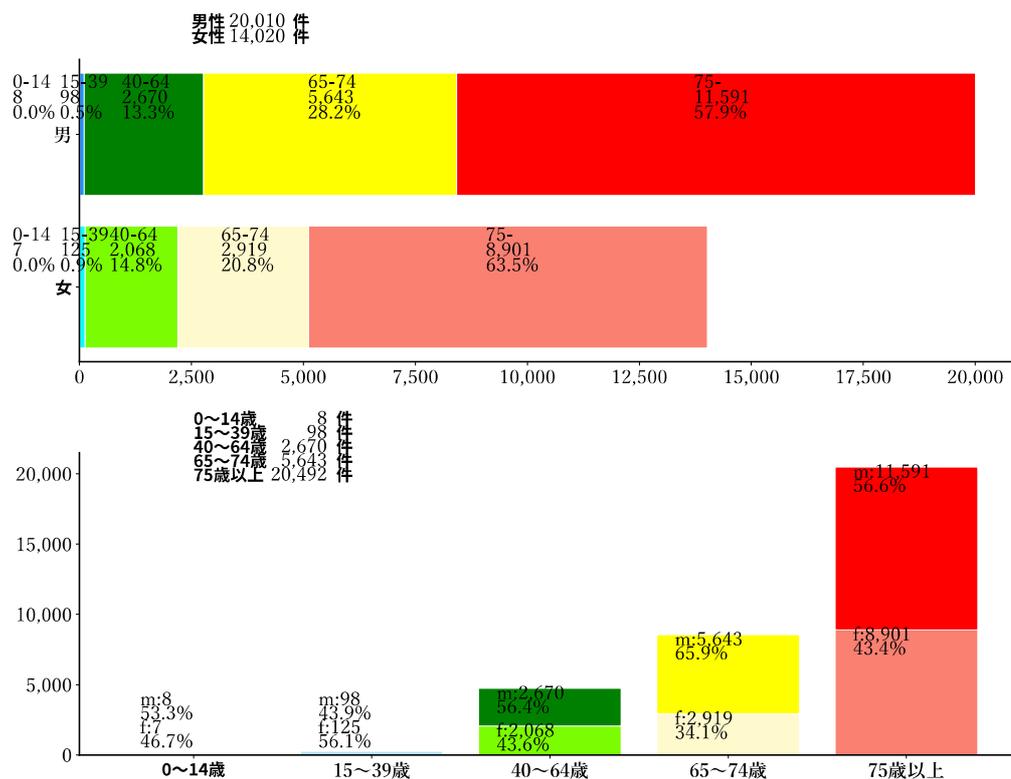


图2-15 部位別年齢階級別死亡率（2017年）：人口10万対

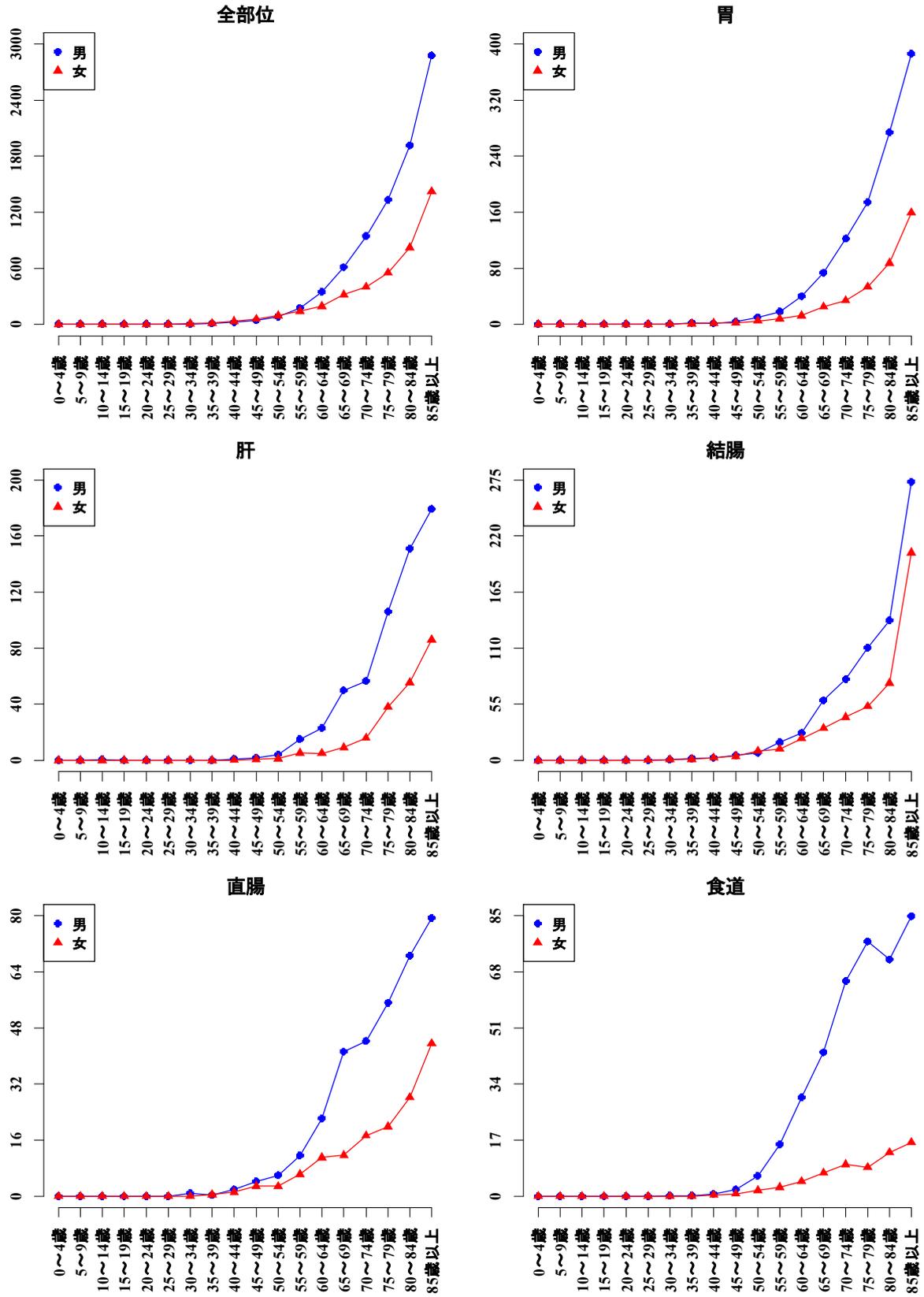
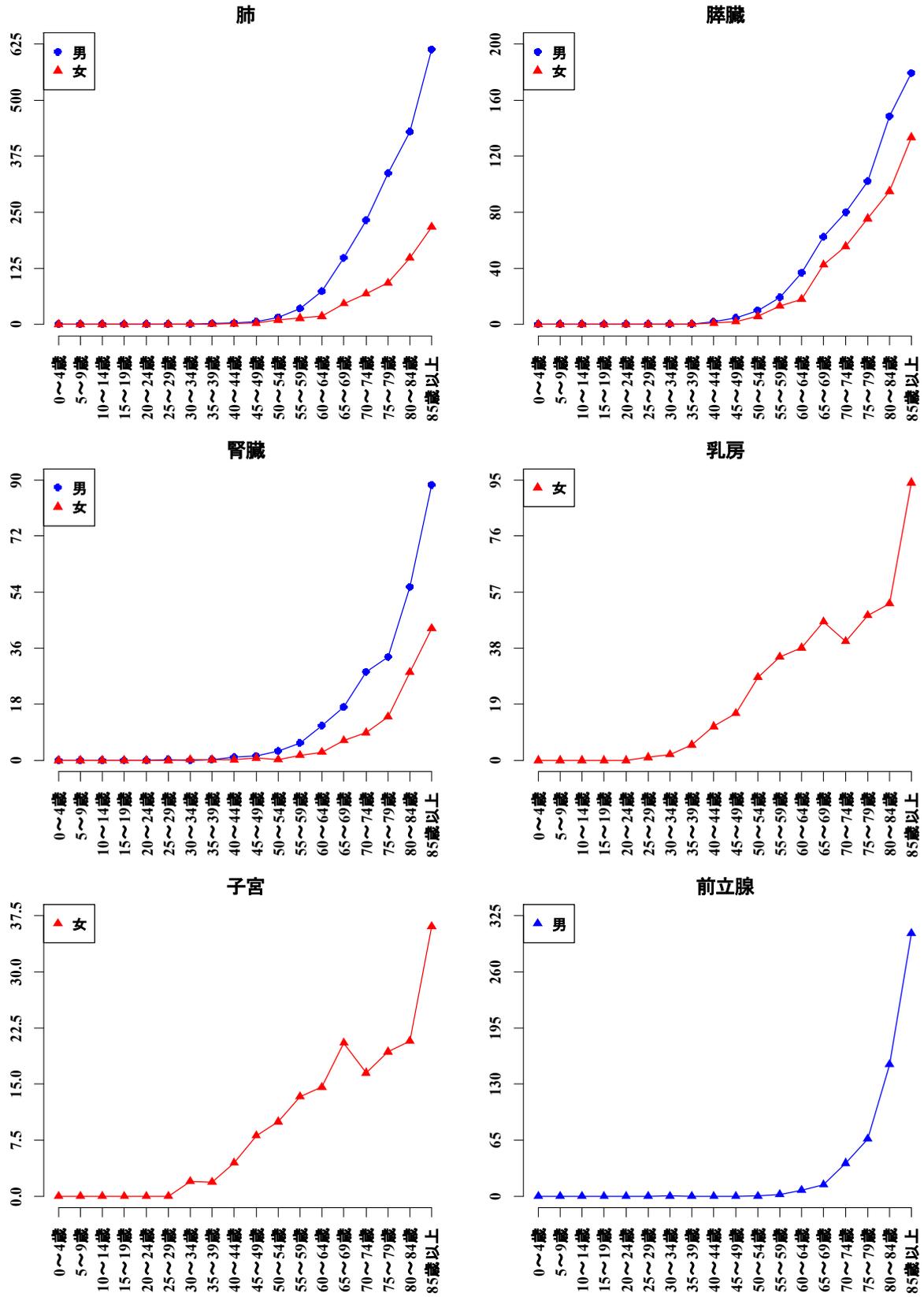


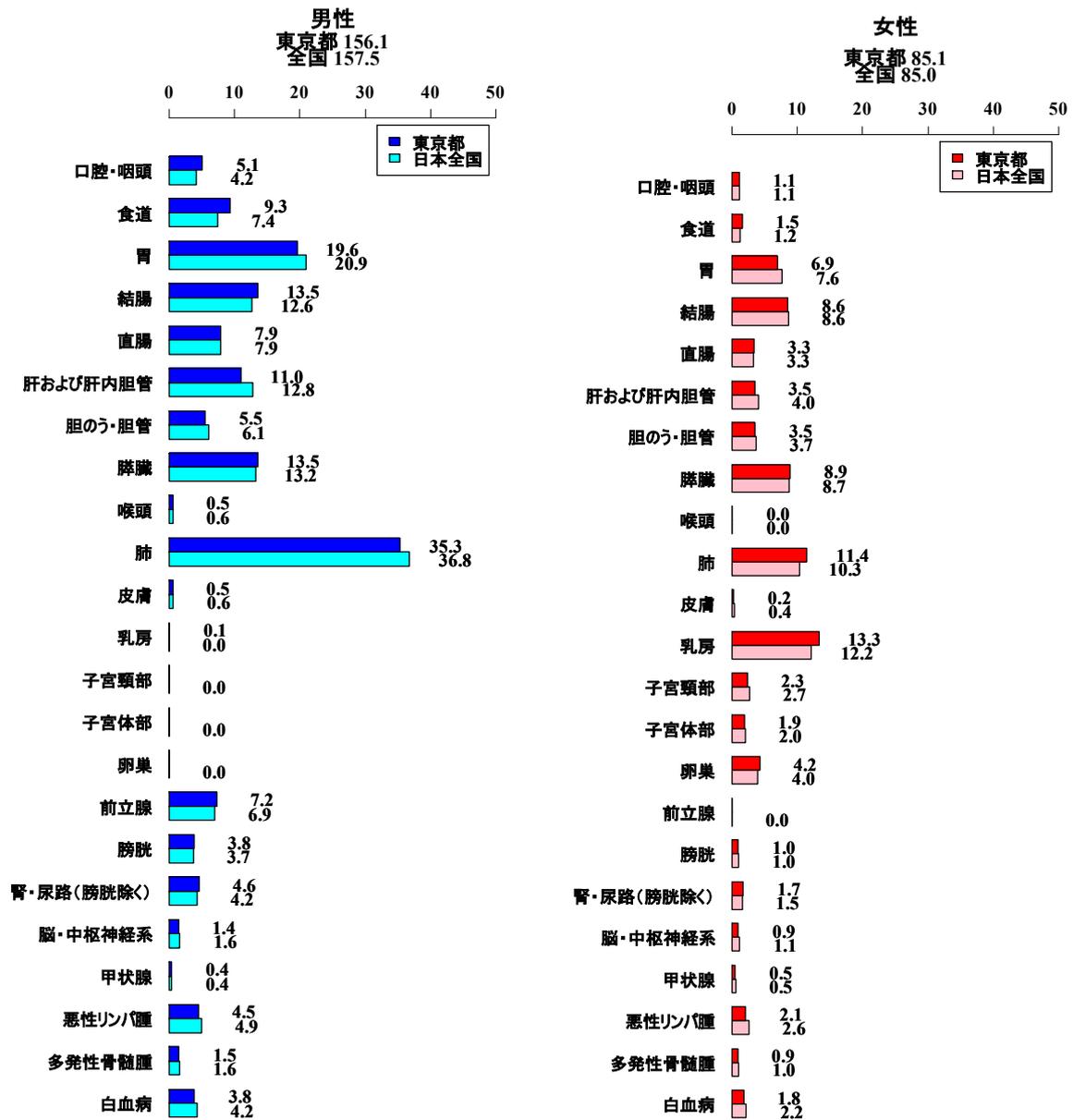
图2-15 部位別年齢階級別死亡率（2017年）：人口10万対（続）



### (3) 年齢調整死亡率（表3-9）

東京都の年齢調整死亡率（昭和60年日本人口モデル）は、人口10万人当たり、男性156.1、女性85.1である。全国推計値は、男性157.5、女性85.0である。部位別では、男女ともに全国と比して概ね同様の傾向を示している（図2-16）。

図2-16 部位別年齢調整死亡率（2017年）：人口10万対（全国推計値との比較）



## 5. 区市町村別がん罹患（付表3-5-A）

全部位及び胃、大腸、肺、肝臓、乳房について、区市町村別の男女別標準化罹患比をコロプレスマップとして示す。人口の少ない地域や頻度の低い部位の場合、標準化罹患比を用いてもわずかな件数の違いで大きく変動してしまう。このため、部位としては五大がんに限り、また、地域としては島嶼部を除いた。なお、ベイズ推定は行っていない。

図2-17-1 区市町村別がん罹患 全部位（上皮内がんを除く） 男性（2017年）

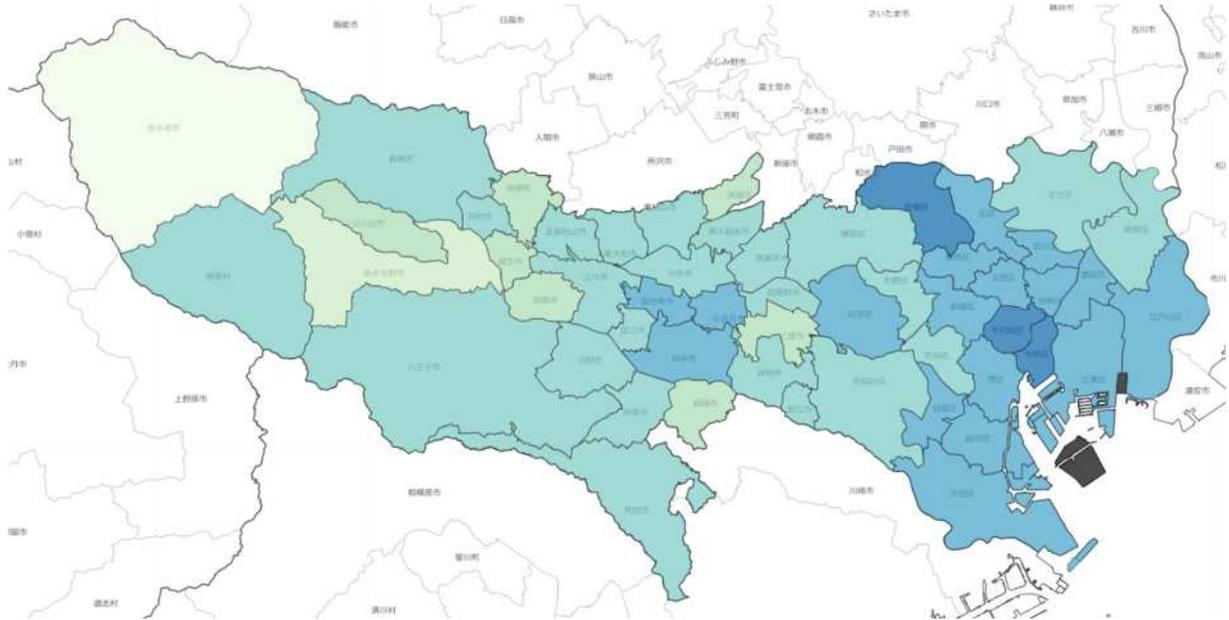


図2-17-2 区市町村別がん罹患 全部位（上皮内がんを除く） 女性（2017年）

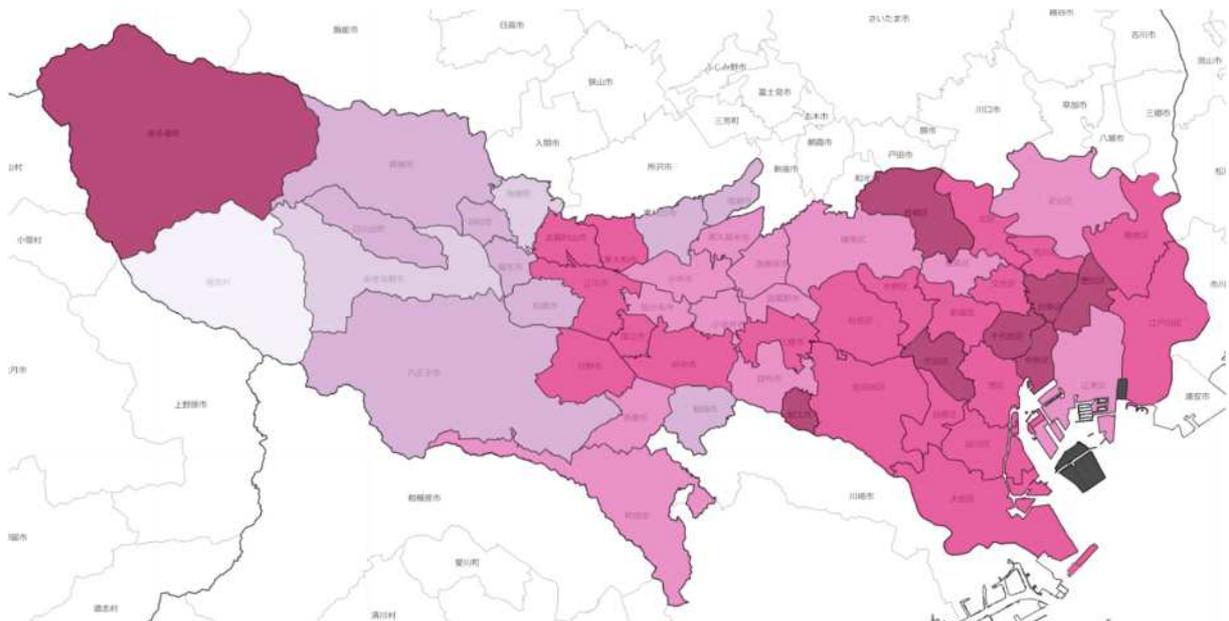


図2-17-3 区市町村別がん罹患 胃（上皮内がんを除く） 男性（2017年）

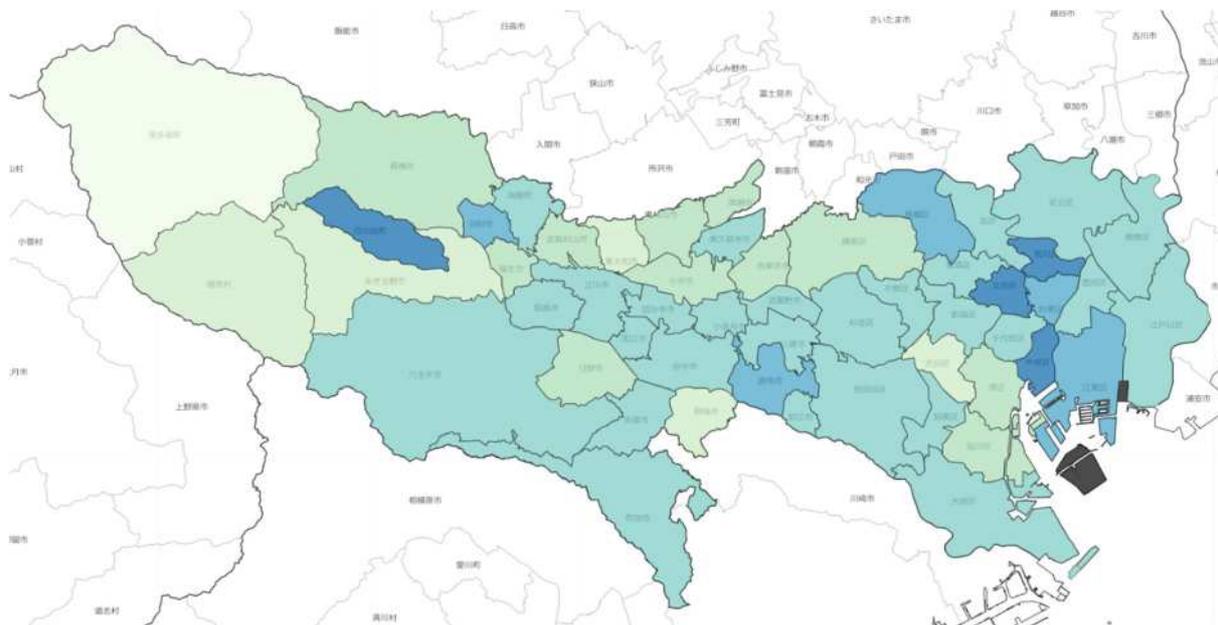


図2-17-4 区市町村別がん罹患 胃（上皮内がんを除く） 女性（2017年）

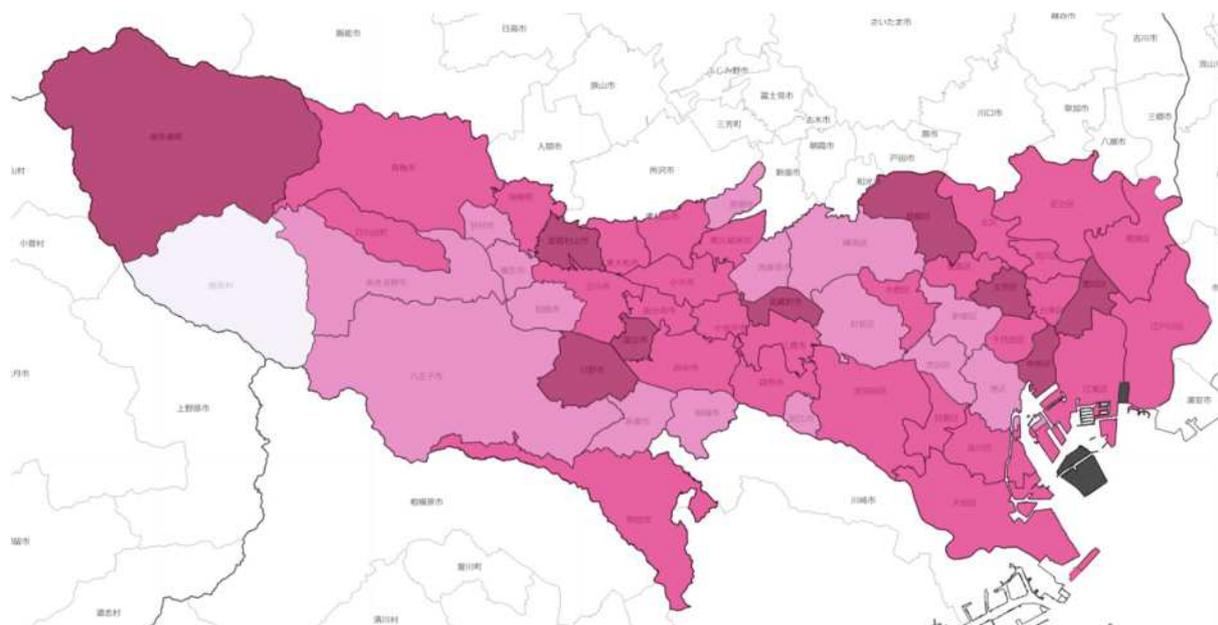


図 2-17-5 区市町村別がん罹患 大腸（上皮内がんを除く） 男性（2017年）

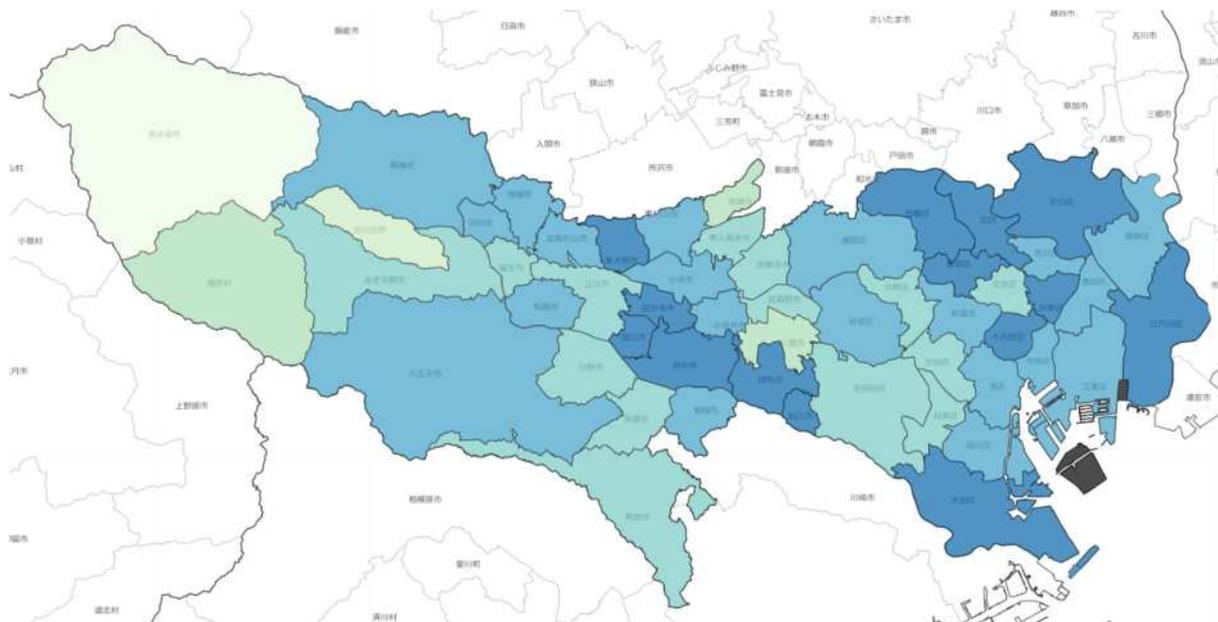


図2-17-6 区市町村別がん罹患 大腸（上皮内がんを除く） 女性（2017年）

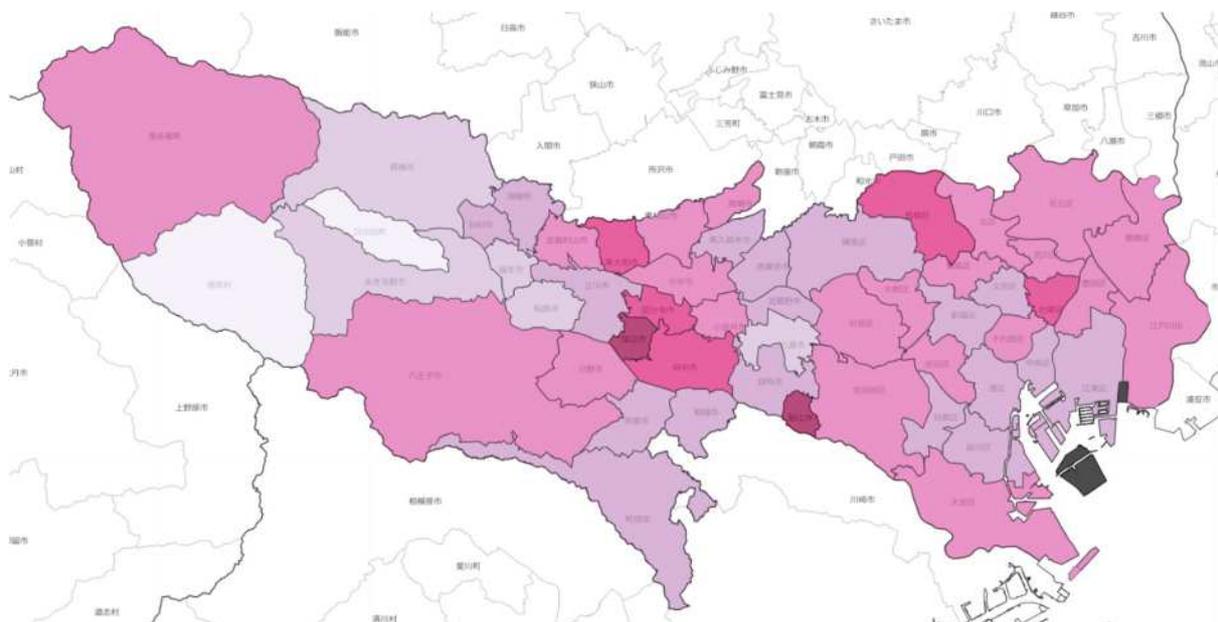


図2-17-7 区市町村別がん罹患 肺（上皮内がんを除く） 男性（2017年）

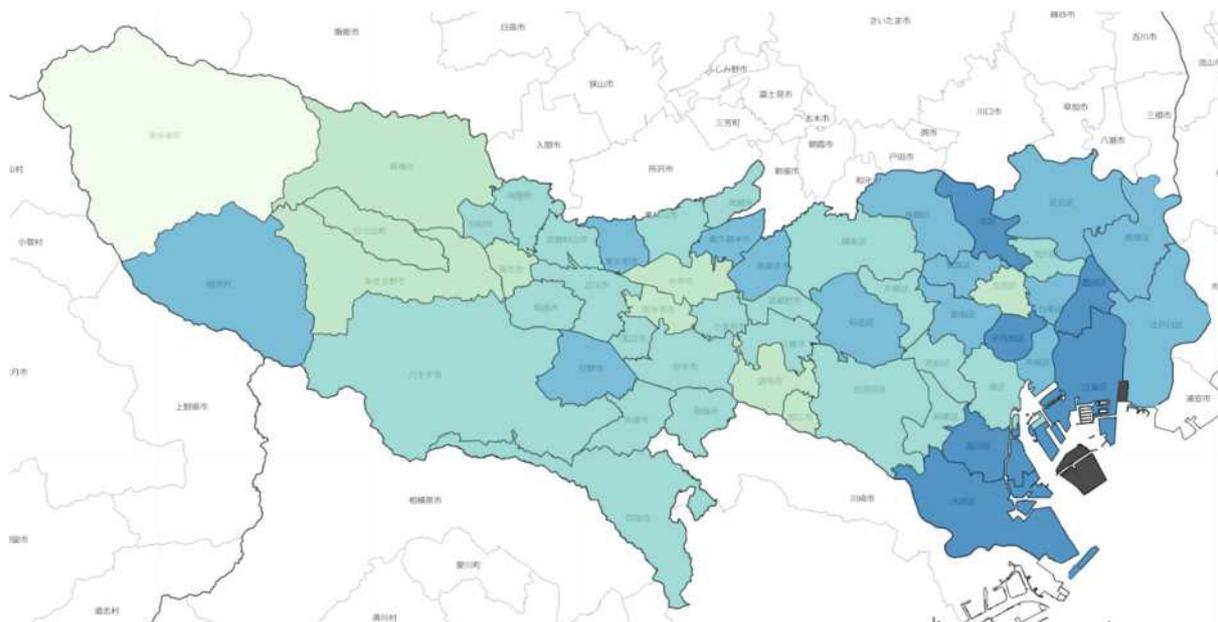


図2-17-8 区市町村別がん罹患 肺（上皮内がんを除く） 女性（2017年）

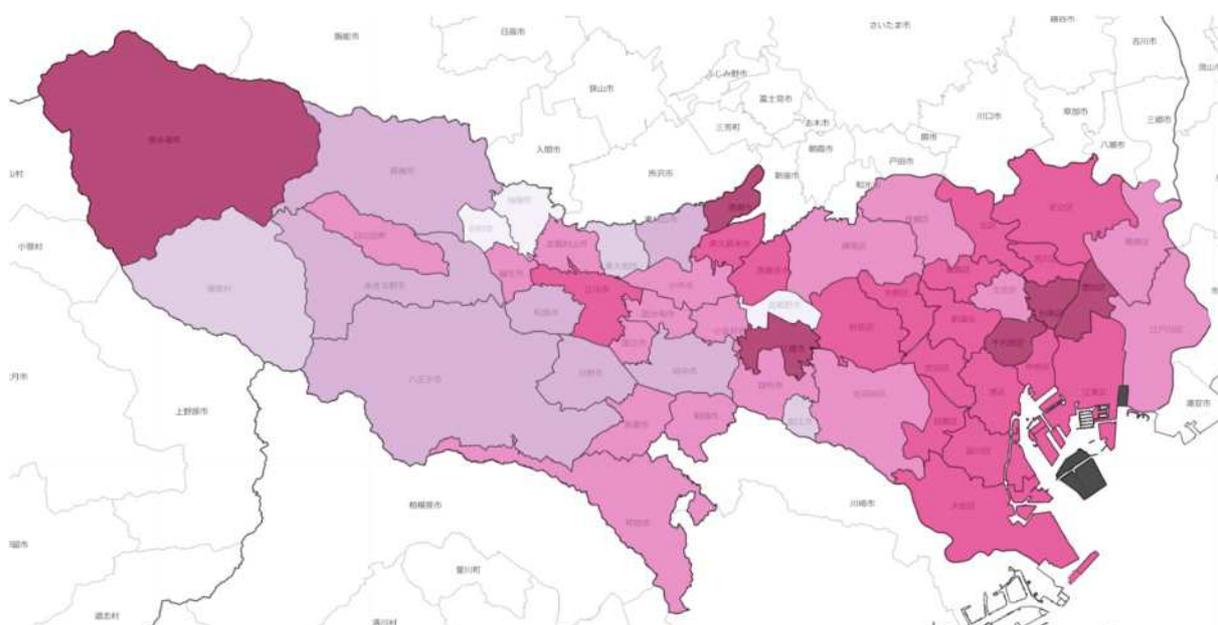


図2-17-9 区市町村別がん罹患 肝臓（上皮内がんを除く） 男性（2017年）

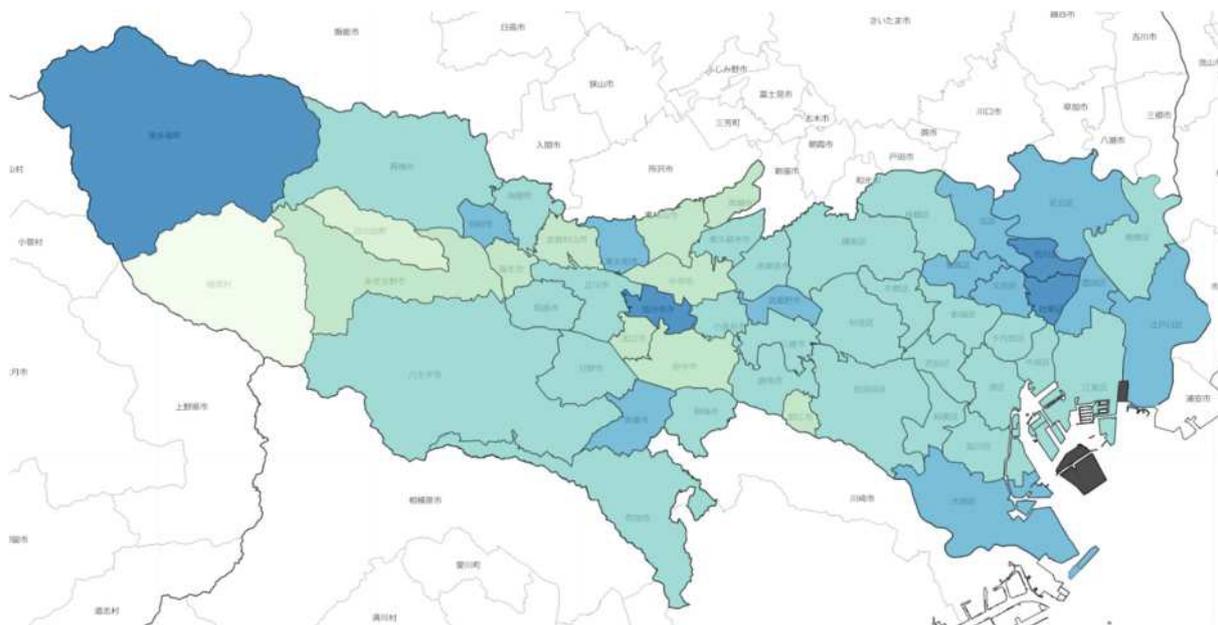


図2-17-10 区市町村別がん罹患 肝臓（上皮内がんを除く） 女性（2017年）

